

11月1日は  
市制施行記念日

# 地域貢献に 感謝の気持ちを 込めて

固秘書課 ☎(235)4572

【特別感謝状】

消防団員として多年・多世代にわたり  
地域の安全確保に貢献  
5世代・4世代・3世代の115家族を表彰

地域消防に  
携わり30年以上

小川敏幸さん(上今泉・74歳)

4世代にわたり、上今泉地区

を担当する第7分団員として活動してきました。私は3世代目で分団員を16年間務めました。当時の分団員を16年間務めたが、当時は石油ストーブの火災が多く、冬は1日3回出場する日もありました。自営業の店をそっこのけにして現場に駆けつけたことを覚えています。消防団長・副団長も6年間経験しました。当時は今のように携帯電話も防災行政無線もない時代でしたので、団の消防車が出動してないか、火災が発生してないかを自分の足で情報収集していました。その後、消防運営審議会にも10年携わったことから、地域消防には30年以上



▶この数十年、消防操法大会や出初式は「ほとんど皆勤」と語る小川さんは「ほとん」と語る小川さん

関わってきたことになりました。今回、特別感謝状をいただけると聞き、ありがたく思っています。孫が消防団に入団すれば5世代目になります。入団してくれたらうれしいですね。

自然の流れで  
消防団員に

新戸勝也さん(中野・37歳)

特別感謝状の話をいただいた時に、自分が消防団員の5



▶「火の用心」の掛け声で地域の安全・安心に少しでも貢献できたらと語る新戸さん

世代目ということを知り、とても驚きました。父が現役の頃の団員姿を見た記憶はありませんでしたが、地域の仲間が皆、消防団員だったので、自分もいずれそうなるんだと、自然の流れで消防団員の道に進みました。中野地区を担当する第13分団に入っており、こととして11年目です。普段は家業のシクラメン栽培を行う傍ら、団員として消火栓点検や訓練をはじめ、春・秋・歳末の時期には消防車で地域を回り火災予防の啓発活動を行っています。チームワーク良く、団員みな仲良く活動しているので入団大歓迎。気軽に声を掛けてほしいと思います。

【特別感謝状】

多年にわたり、宮城県白石市長として海老名市との姉妹都市交流に尽力

宮城県白石市長

風間康静さん(55歳)



からの支援です。被災直後から毎日のように支援物資を届けていただいたおかげで大変勇気付けられ、白石市の復旧・復興に大きな力を与えていただきました。内野市長をはじめ、海老名市の皆さんの温かいご支援

のたまものであると心から感謝申し上げます。加えて、平成27年に海老名市と登別市が姉妹都市となったことは、私の何よりの喜びです。

このたび、任期満了の11月13日をもって、3期



▲「トライアングル姉妹都市」で交流を深める3市の市長。ことしのえびな市民まつり会場で。左から内野市長・風間市長・小笠原登別市長

12年にわたる白石市長の職を退任することに致しました。今後、3市の市民が友好関係の火を絶やすことなく、「共に汗をかき、共に学び、共に生かし」、お互いに手を携えながら発展していくことを願っております。任期中のご高配、本当にありがとうございました。



むかしも、  
いまも、  
これからも。

海老名市と白石市は、平成6年に姉妹都市となりました。その後、平成22年に北海道登別市を加えた3市間で「災害援助協定」を締結したほか、平成23年には3市間の「トライアングル交流」の調印を行うなど、強い絆を深めてまいりました。さまざまな交流を重ねてまいりましたが、やはり強く印象に残っているのは、東日本大震災時の海老名市